

IMF の政策監視

パドア・スキオッパ氏を IMFC 新議長に選出

IMF サーベイ・オンライン
2007 年 10 月 5 日



2007 年 IMF・世銀年次総会で IMFC 新議長に就任するイタリア経済財務相のパドア・スキオッパ氏（写真：Lehtikuvu/ロイター）

- イタリア経済財務相が 2007 年秋季会合で国際通貨金融委員会（IMFC）議長に就任予定。
- IMFC は年 2 回開催され、IMF 政策の方向性および優先順位を定める。
- パドア・スキオッパ氏は 2006 年 5 月からイタリア経済財務相を務めている。

イタリア経済財務相のトンマーズ・パドア・スキオッパ氏は 10 月 3 日、ゴードン・ブラウン氏の後任として、IMFC 新議長に選出された。IMFC は国際通貨基金（IMF）の政策の方向性や政策全般の優先順位を定める委員会である。

イタリア経済財務相のトンマーズ・パドア・スキオッパ氏は、ゴードン・ブラウン氏の後任として、国際通貨金融委員会（IMFC）議長に選出された。パドア・スキオッパ氏は、10 月 20 日－22 日にワシントン D.C. で開催予定の 2007 年 IMF・世銀年次総会中に開かれる次回 IMFC 会合で IMFC 議長に就任する。IMFC は、IMF の政策の方向性や政策全般の優先順位を定める委員会である。

今回は、米国サブプライム住宅ローン市場の崩壊に起因する金融市場の動揺によって世界市場が混乱して以降、初めての IMFC 会合となる。ドミニク・ストロスカーン氏がロドリゴ・デ・ラト氏の後任として IMF 専務理事に就任すると同時に、パドア・スキオッパ氏も IMFC 議長の職を引き継ぐ。

パドア・スキオッパ氏（67 歳）は、2006 年 5 月からイタリアのロマーノ・プロディ内閣で経済財務相を務めている。ゴードン・ブラウン氏が 8 年間にわたって IMFC 議長を務めた後、英国首相就任を機に 7 月に退任。これを受けて、パドア・スキオッパ氏が新議長に選出され、3 年までの任期を務める。

パドア・スキオッパ氏は 1998 年－2005 年に欧州中央銀行（ECB）理事を務め、それ以前にはイタリアの金融市場監督当局（イタリア国家証券委員会＝Consob）の委員長のほか、イタリア銀行や欧州委員会の要職を歴任しており、様々な欧州および国際経済金融委員会においても指導的地位に就いてきた。

IMFC の 24 人の委員は通常、IMF 理事会の構成と同じ国・グループの蔵相や中央銀行総裁から構成される。IMFC は IMF 総務会の決議を受けて 1999 年 9 月 30 日に設立された。

役割の強化

1999 年の決議により、1974 年に創設された国際通貨制度に関する総務会暫定委員会（通称「暫定委員会」）に代わって IMFC が設立された。この変更は、IMF 総務会の主たる諮問委員会という役割の強化を意味するものであった。

暫定委員会の場合と同様に、IMFC は通常、9 月もしくは 10 月に開催される IMF・世銀年次総会前と、4 月に開催される IMF・世銀の春季会合時の年 2 回、開催される。

IMFC に関する IMF 総務会の決議によると、IMFC 議長は IMFC によって選出され、IMFC が決定した任期を務めると規定されている。

IMFC ならびにその前身の暫定委員会の過去 15 人の議長選出時と同様に、議長選出プロセスでは、新 IMFC 議長選出についての合意に至るまで、IMF 理事レベルの IMFC 委員が加盟国の首都で協議を重ねてきた。